

中学社会科研究部 第2回研修会

8月1日（木）、中学社会科の第2回研修会は5つのコースに分かれて行いました。普段はなかなか聞くことができない方から話を聞いたり、見学できないところを訪れたりすることができました。2学期以降の授業に生かしていきたいと思います。

① 博物館コース

博物館内の常設展示・テーマ展・貸出資料などについて学芸員や指導主事の方から解説して頂きました。

それぞれの先生が、学区にまつわる資料を探したり、授業で実際に使える解説の手法を学んだり、課題意識をもって研修に取り組んでいました。社会科教員の視点での博物館研修は、指導する側の見方や考え方を広げる事につながりました。



② 復興記念館コース

浜松市遺族会の大石功氏を招き、「浜松大空襲～河西訓導と百武源吾」と題して講話をいただきました。地元浜松が、戦時期にどのような被害を受けたか、またどのように戦争遂行に加担した側面があったかなど、多面的にお話いただきました。これからの世の中を平和にしていくために、実際に戦後を生きてこられた講師の方々のお話や復興記念館で見学したことを授業に生かしたいと思いました。



③ 多文化共生コース

東京未来大学より中澤純一氏を招き、「多文化なまち（はままつ）～多様な人々とともにより良い社会を築いていくために～」というテーマのもとで研修会を行いました。多様性の尊重は国際社会が健全に成立するための基本であり、少数派（マイノリティ）の人々が差別や排除の対象にならないようにということを学ぶことができました。また、多数派（マジョリティ）が「ちがいを肯定的に受け入れる姿勢が大切であり、多文化共生という視点で授業を行うことの重要性についても学びました。



④ 地域おこしコース

磐田市万瀬で地域おこしに貢献されている山本六二郎氏にご講話を頂きました。財産区に指定されている山の利用法や、自治会と協力して行っている事業のあらましをうかがいました。また、山本氏がオーナーの浜松ワインセラーに訪問させてもらい、未成線となっていたトンネル内部を見学させてもらいました。地域活性化のため、新たなものを創り出すだけでなく、今ある財の利用の大切さを改めて考えさせられました。身近な地域について、生徒たちと考えるための研修になりました。

